

『AED』のおはなし

2015/10/18

AED（自動体外式除細動器）は街中でもよく見かけるようになりました。設置されるようになって 10 年がたちましたが、実際使ったことのある人は多くはないと思います。AED は

A : Automated（自動化された）、

E : External（体外式の）、

D : Defibrillator（除細動器）



電気ショックを与えて心臓の正常な動きを取り戻す、救命救急の機器です。

「心臓突然死」の死者数は全国で年間7万人、この中には救えたはずの命も少なくありません。全国で設置が進められてきた AED が全体の約 3.7%しか使われていないのです。原因は「使い方が分からない」、「心停止かどうか分からない」など、一般の人たちへの周知不足のようです。

2011 年 9 月、さいたま市の小学校で 6 年生の女の子が駅伝の課外練習中に倒れ、死亡するという事故がありました。倒れた直後に「けいれん」や死戦期呼吸と呼ばれる「ゆっくりとあえぐような呼吸」があったために、教師らは心臓が止まっているとは思わずに、校内にあった AED を使わなかったことがわかりました。

その反省から、反応の確認、呼吸の確認など心停止の判断をする際に、「判断ができなかったり、迷ったら、胸骨圧迫と AED の使用に進む」という ASUKA モデルがつくられました。

AED は除細動が必要でない場合で倒れている人には作動しません。
人が倒れているとき、迷わず AED を使える勇気を持ってください。

